

これまでなかったものが現れてくる

リンゴが生る。今は、昔作を期待して育てているのですから、真っ赤な玉がたくさんつくの当たり前と思っていますが、初めて実が生るところを見た人は、とても不思議で、どこから来たのだろうと思っただけです。小さな緑の粒が生まれ、大きくなり、やがて真っ赤になってくる。それを噛ると、口中に甘酸っぱさが広がるのですから、魔法のようです。

生る。何も無いように見えるところから、時には何も無いところから、思いもかけない、そして魅力的なものが生まれてくる様子を表わす言葉です。自然界は生るで満ちています。作ることに力を注いでいる現代社会だからこそ、改めて“生る”に眼を向けました。思いがけないことへの驚きと喜びを感じた後、その路にある「しくみ」や「きまり」を探すのも楽しみです。



世界は“生る”の連続で

宇宙、惑星の一つである地球、生命体、その一つとしてのヒト(人間)……次々と生まれ、世界が成熟した。“生る”にいたるまでの時間の中で何が準備されているのか、興味深いところだ。137億年前に、無からトンネル効果で宇宙が生まれた時、46億年前に地球が生まれた時、水をたえた地球に生きものが生まれた時、そして数十万種という生きものも生じ可能性を拓いたゲノムを持つ細胞から人間が生まれた時、それぞれにいたるまでの長い時間を思うのです。効率ばかりで忙しい社会だからこそ、“生る”に目を向けました。

